



「研修便り」は、高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有、研究所から発信する情報の提供を目的として、発行していきます。

平成26年度 初任者研修 課題等研修Ⅴ【中学校】 日時：平成26年11月13日（木）実施

目的

キャリア教育についての研修を通して、中学校進路指導の在り方を理解するとともに、指導力の向上を図る。

研修Ⅰ【授業参観】

【授業参観の感想】

- ・ ベアやグループ活動を取り入れ、イメージとしてもっていた講義型の授業ではなく、主体的に生徒が参加する授業づくりの工夫がされていた。全ての先生方が工夫して学びの多い授業を行っているということが分かった。
- ・ 中学校の授業との共通点を見つけ、基礎的な能力をしっかり身に付けさせることも高校に進学させるときには必要であると思った。また、商業高校では今のような授業を行い、生徒たちがどのような意識で授業を受けているのかを知ることができ、中学校でのキャリア教育のための、また進路指導のためのよい学びを得た。

初任者は担当教科の授業を中心に「財務会計」「情報処理」「経済活動と法」等、商業高校ならではの特色ある授業も参観した。

研修Ⅱ【講義】「高等学校の進路指導と中学校における進路指導の在り方について」

講師：高知商業高等学校 岡崎 伸二 教頭

TBL（Team-Based-Learning, チーム基盤型学習）の手法を取り入れて

変化する社会

- ・ 右肩上がりの経済成長から**持続的発展可能な社会**の実現へ
- ・ 経済のグローバル化・高度情報通信ネットワーク社会の到来・産業構造の転換・少子高齢化

変化する企業

- ・ 年功序列型賃金制度、終身雇用制の崩れ・求められる人材の変化
- ・ 「学歴」重視から「活用できる能力」「判断力」「行動力」重視へ
- ・ 「何をどこで学んだか」から「学んだことをどう使えるか」へ

変化する大学

- ・ 入試の多様化…推薦入試、AO入試
- ・ 大学の格付けの変化…「偏差値」だけでなく「就職率」など多様な評価へ
- ・ 学生のやる気不足、リーダー不足、コミュニケーション力不足

変化する生徒達

- ・ 五無主義…無気力、無関心、無責任、無感動、無作法
- ・ 島宇宙…限られた世界以外は知らない、関心が無い

変化する高校教育

- ・ 進路先の多様化…専門高校において進学希望者が増加
- ・ 特色ある学校づくり…学校目標に沿った新学科、学校設定科目の設置
- ・ 全ての高校生に求められる社会的・職業的自立を促すキャリア教育の必要性

これからの中学校の進路指導の在り方

認識の壁

感情の壁

文化の壁

〇〇高校と言えばスポーツ！
大学に行きたいのになぜ専門高校を選ぶ？
専門高校の進路は就職が多い？！

これらの壁を破った進路指導が必要になってくる



“単線型進路指導”から“複線型進路指導”へ

【受講者の感想】

- ・ 日々激しく変化する社会に対応できるような生徒の育成をめざすとともに、自分自身もその変化に取り残されないよう積極的に情報を入手し、進路指導に生かせるようにしていきたい。更なる未来を見据え、夢に向かって前進していける生徒を育てていきたい。
- ・ 単に「進学か就職か」という面で進路を考えるのではなく、生徒の将来の目標や願いを叶えることのできる進路選択ができるよう指導していくことが重要であるということを知ることができた。

横浜中学校では「モデル生徒の不在によるソーシャルスキルの低下」という課題に対して、「アドベンチャー教育アプローチに伴う体験学習」をプログラムの一つとして取り入れ、「安心・安全なクラスや環境づくり」をめざしている。

平成26年度 高知市研究協力校発表 高知市立横浜中学校
研究主題「生きる力（自立型生徒）を育てる学校づくり」
～聴きあい、支えあい、学びつづける生徒の育成～

平成26年12月16日（火）

「人間関係づくりプログラム」

講師： 玉川大学 村井 伸二 助教

キーワード「協力」「コミュニケーション」「尊重」「チャレンジ」

事前 指導	【アイスブレイキング】心と体の緊張をほぐすことを目的とした活動 【ビーイング】人と付き合う上で大事にしている事、大切にしている事を考えて書く活動
12/16 (本時)	<p>○ ウォーミングアップ… 生徒同士が関わり合い、この後の活動において必要な体の動きを整え、感情的な部分も上げていながら準備していく活動</p> <div data-bbox="207 600 471 839"><p>ミラー・ストレッチ ペアになり先に片方が動かした体の動きについていながら同じ動きをしてみる活動。役割を交代することでリーダーシップとフォロワーシップを体験する。</p></div> <div data-bbox="778 600 1042 839"><p>エブリバディー・アップ ペアになりお互いの体を委ねながらコミュニケーションを図って立ち上がり座ってみる活動。人数を増やしていくことで課題解決の要素が加わる。</p></div> <p>○ ローエレメント… ある課題に対して、グループで協力しながら挑戦する活動</p> <div data-bbox="207 890 471 1108"><p>ホェールウォッチング グループで板の上に乗ってコミュニケーションを図りながらバランスを保つことが課題となる活動</p></div> <div data-bbox="778 890 1042 1108"><p>ニトロクロッシング スイングロープを活用しながら、ある場所から板の上まで移動し、落ちないようにしてみんなで協力しながら乗ることが課題となる活動</p></div> <p>○ ハイエレメント… 仲間との相互尊重、信頼を基にして個人が挑戦する活動</p> <div data-bbox="207 1149 471 1367"><p>ムササビスイング 挑戦者にハーネスや器具、クライミングロープを取り付け、天井に設置してある滑車を通じ、反対側の伸びたロープを生徒たちが引張ることで挑戦者が5～6m天井に向かって上がっていく。この活動においては、安全へのコマンド（声かけ）や、ロープを引張る方のリーダーが生徒たちをまとめ、挑戦者が安全に活動できるように協力していくことから、個人の成長とともに相互尊重、信頼関係をさらに強化することがねらいである。</p></div>
事後 指導	【ふりかえり】 「活動をやってみてどうだった？」「どう感じた？」「それはどういう意味？」「それって次にどう生かせるかな？」といった体験学習サイクルを基に質問を促しながら生徒たちの学びを引き出していく活動

【教員によるフィードバック】

- ・ 学校生活においても、四つのキーワードがよく聞こえてくるようになった。生徒に指導する際にも、このキーワードを使って話をすると、生徒に伝わりやすいと感じる。
- ・ 体験をした後の生徒の学校の様子を見てみると、以前より男女のかかわりがよくなったと思う。
- ・ 教室では友達から認められる場面が少ない生徒も、「ムササビスイング」にチャレンジすることで、周りから「がんばった」と認められる場面ができた。



活動後は、先生方と率直に今回の活動のフィードバック・質疑応答として「なぜこのような対応をしたのか」及び活動の意義等について共有し、今後の学級運営についてどう取り組んでいけるかという話合いの機会を作りたいと考えている。

今日の活動のように、アドベンチャー教育に伴う体験学習を通じて、安心・安全な場所からチャレンジし、個々のもつリーダーシップを开花させ、自主性を養うことで他者同士が影響し合い、お互いのソーシャルスキルを高め合い、お互いが成長できるような活動を提供していきたい。

- 心の教育センターにあるハイエレメントを有するインドア・チャレンジコースの施設は、公的機関として四国地方で唯一である。